女學雜誌

第二百六十二號
明治二十四年四月廿五日發兌

紫海の嵐（新小説）
エスレー百年紀 威氏の逸事
シベリアの實況
病中偶書 不知庵主人
婚姻箴（方寸子）

下六番町六番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 262. April, 25th. 1891.

EDITORIAL :—Christianity in Japan II. (Pastors and Churches).

MISCELLANEOUS :—Centennial of John Wesley ; Weseey's Last Sermon and his Church (Illustrated) ; Thoughts on the Sick-Bed (Fuchi-un) ; Women of Siberia. by Miss Frances Willard ; Women Plus Time. II.

NOVEL :—Courtship of "Miles Standish." Shikai no Arashi." (A Story of persecution in Japan in the 16th Century.

CRITICAL NOTES :—" Love, philosophically explained."

HOUSEHOLD :—Thrift ; Mrs. Harrison in the White House.

SEED THOUGHT :—On Marriage. (Ho-Sunshi).

NOTES AND NEWS.

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

第二百六十二號目次

社説 日本の宗教(神學論、近世の傾向、會堂、牧師)

雜錄 活牧師ジョン、エスレー(一百年紀に際する追懐)(上)○威氏説教の細密畵○病中偶書(不知庵主人)○現世の陰府、シベリアの眞狀(碓氷山人譯)○近三年間米國婦人の大進步(其二)

小説 マイルス、スタンヂッシュの戀(愛山生)○紫海の嵐(みさを)

批評 相思戀愛の現像(撫象子)

文學 和歌數首(東京案山子の屋社中)○文躰○人生

家政 小事の用意倹約○眞さの貯蓄○黄金の用○濫に棄つべからず○大統領夫人の家政

隨感 婚姻箴(方寸子)

寄書 ハリス氏夫婦米國に歸るを送る(明治女學校教師)。

時事 内閣の變動○假りに安心す○露國皇太子○花落つ○賣國文○西郷不來○文學再興○亞片○

問答

女報

通信

週報

物價

廣告

女學雜誌社出版書目

つれづれ草講義	鈴木弘恭大人述	一册	價八錢
文法口授	鈴木弘恭大人述	一册	同十六錢
百八一首講義	鈴木弘恭大人述	一册	同三十五錢
產婦小兒攝生法	船越鼎太郎君著	一册	同十六錢
ひめ鑑	關輪正路君纂	一册	同四十五錢
善惡之岐	中島俊子著	一册	同卅五錢
婚姻論	横山雅男君著	一册	同十六錢
廢娼演説	島田三郎、植木枝盛兩君演説	一册	同五錢
妓樓全廢	巖本善治述	一册	同五錢
公娼可減	島田三郎、巖本善治同著	一册	同四錢
植物學	農學士寺尾熊三著	一册	同十二錢
混虫植物金石採集法	林學生星野愼著	一册	同十二錢
和畵手本	明治女學校教師八木兼辰著	四册	同壹圓
演説著作材料	女學雜誌社編輯	八册	同四十錢

下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百六十二號
明治二十四年四月廿五日發兌

社説

日本の基督教（中）

六。神學論

神學の教會に於ける關係は、猶ほ倫理の學校に於けるが如けん。倫理の研究は、面白きものに相違なけれど、學校實際の德育には左程の影響なし。如此く、神學の議論も大して教會を益するものにあらず。

善とは何んぞや、良心とは何んぞや、義務とは何んぞや。一々冷淡に分解し來れば、異論樣々にして容易に局を結ぶべくもあらず。惟ふに方今何如なる倫理學者と雖ども、極めて明白に其原理を解釋し得るものは少なかるべし。啻に尠なきのみにあらず、殆んど爲しがたきの事とす。左りとて、此を以ての故に、人は善を知らず、義務を辨ぜず、良心を覺らずとは云はず。實際の道德に於ては、差して不都合あるを見ず。又よし玆に論理明白なる倫理學者ありと云ふと雖ども、其人の論理によりて、善を進め、義務を強くし、良心を熾んにすとも思はへず。實際の道德に是と云ふ關係を有せず。德育の中心は、活人物の活德にあり、議論は閑問題に屬す。

教會にて神學を八釜しきとに言ひ、牧師の資格に神學上の智識を第一にする類ひは、偶たま右學校教師の空論に似ざるなき乎。吾人は、德育の主旨、並びに宗教の精神なるものゝ、斷じて此に存せざるとを覺悟す。

七。今の自由説

近來切りに自由説とか稱するもの流行するよし。之が爲めに各教會の騷擾一と方ならずと聞く。自由説の流行は左して搆ふ所ろなしと云へど、之が爲めに騷擾するに至りては、平素の信仰思ひ遣られて、最とゞ歎かはしきとと知らる。牧師教師が、牧會宣教のひま〳〵、折にふれて神學を研窮し、研窮の結果として、端なく自由説を採るに至れりとも、別に異變の事にあらず。若し、其自由説の爲めに、大切なる宗教上の眞精神に增減する所ろありとせば、之れ由々しき大事件なりと云へど、所云る宗教上の眞精神は、かゝる論理の異動によりて增減すべきものにあらじ。左れど、其牧師教師にして實際

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

之に増減ありと云はゞ、彼人從來の信仰思ひ遣られて、最とゞ歎かはしきことを知らる。

夫れ、神儼然として天地間に居ますと云ふ事、我儕罪あり之を悔ひて善に移らざる可らずと云ふ事、基督の性格至大至尊にして我儕之を師表とせんと欲する事、犧牲献身の行ひ何如にも高潔にして仰ひで欽慕の念に禁ずる能はず我儕何如にもして其行ひを試みんとするの精神ある事。凡そ此等四つ五つの事は、論理によりて考定すべきものにあらず、只だ我儕の意識に認覺し終極自明の眞理として正に確信する所ろのものにあらずや。雨降らば降れ、風吹かば吹け。我儕此般の信仰は安んぞ議論によりて動かすことを得べきものならん。

而して此般の信仰は、異邦人にもユダヤ人にも支那人にも朝鮮人にもあり、我儕にも未信の族らにもあり、孔子も之を說き、ソクラチースも之を說けり。たゞ未だ曾て基督の如く明白に之を說きたるものあらず、亦た基督の如く確實に信仰したるものあらず、亦基督の如く完全に其實行を範表したるものあらず。所云る基督教徒は、之を以ての故に基督に就き、其德に薫化されて、實際信仰に進まんと欲するにあり。基督は未だ曾て神學上の議論を爲さず、我儕が彼に學ぶ所ろのものは、神學にはあらざる也。

晝夜思ふて止まず、朝たに夕べに胸を叩いて悔悟する所ろのものは、我儕の德、神に似ず、善行の擧らざる頗ぶる多きの所ろにあり。然れども、仰いで基督を見、省みて我眞心に聞けば、道念潮の湧くが如く、精神嵐の吹起らんとするの狀あり、未だ曾て失望することあらず、吟じて道に進まんことを希圖す。今日の吾れ未だ足らずと云ふと雖も、昨日の吾に優る。如此くして日に日に神に近づき基督に似ることを思ふときは、心中の爽快何ものに喩ふべき、神學上彼此の論爭の如きは、殆んど蠟を嚙むの心地す、味はひ比ぶべくもあらず。

八。會　堂

會堂は猶ほ學校の如し、安息日は猶ほ科程時間の如し、信徒の玆に集まりて德を修むるは、生徒の學校に通ひて其藝を學ぶに似たり。

吾れ基督に就かざる頃ろ、神を知らず、天道人情に接せずして、人類本然の道を步まざりき、其行く末は永遠の死なり、永道の死とは、永遠道に於て活動せざるを謂ふ。人として人

の道を歩まず、濶歩して而して禽獸の行なひを爲す、人間の受くべき辱しめの中ち他に此より大ひなる者あらんや。故に此を最大の罰と云ふ。われ基督に就き、道に於て活き、死の歩みより導びき出され、至大なる罰より贖なはれたり。基督の贖ないとは是れ也。故に之を基督の救ひと云ふ。

救ひに入るの第一歩は、敎會に入るの門なり。喩へば、道に志ざし、學校に入るが如し。入るに當りて洗禮の式を領し、入會の契約を爲す。喩へば、束脩を修めて、門弟の契りを爲すが如し。修練篤行の業、此時より初まる。

學校に入るの日は、勉學を初むるの日なり、然るに此日より直ちに學に怠たらば、人何如にして道に進まん。今の信徒會堂に入れば則はち安心し、受洗の后ち敢て德に進まんとせず。之れ豈に入門の日は即はち卒業の日なりと心得たるものにあらずや。

九。牧　師

牧師は猶ほ敎育者の如し。敎育者が人を導びくは、必らずしも其講話にあらず、必らずしも其學論にあらず、實に其の活ける德行にある也。牧師が信徒に對するの關係、亦斯の如くあらずんばある可らず。

而して敎師は多くあれども敎育者の至つて尠なきが如く、宣敎師は多くありと雖ども牧師は本來至つて尠なきを當然とす。夫れ、敎育者とは、人界の大先生なり、德行万人の師表たるに適し、風采衆を化するに足る、所云る、人の本性を抽發し、春の如く人をして生かしむるの眞敎師なり。敎師亦常に敎育者の資格を存すべし、然れども世事不全、實際斯の如くなると至難なれば、吾人は敎育者に就て重きを求むれども、敎師には只だ、理を敎へ法を講ずるの容易きを求むるのみ、敢て其餘を備ふるとを必要とせず。然れども、敎育者は即はち一世の大先生ならずんばある可らず。

牧師は當に斯の敎育者の如くなるべし、德行衆に秀ひで、感化万人を薰せざれば不可なり。然るに今の牧師は間ま敎會中の一信徒よりも薄德なるものあり、斯して安んぞ敎會學校の大先生たるとを得ん。

たゞ其牧師の優る所ろのものは、敎理を知れるにあり。夫れ敎理を知るのみにして未だ德行の至らざるものは、所云る敎師たるの格に適す。當に宣敎師として福音を四方に傳ふべし。

未だ人を牧するには適せず。

吾人は、現今牧師と云へる人の甚だ多きを觀る。彼人悉とく大先生なりや。果して然らば幸ひ也。然れども、吾人は左程多くの牧師を要せず、例せば府下の如き、唯一人にして足るべし、若くは日本中、唯二三人にして足るべしと思ふ。人もし此說を聞かば啞然として吾人が言を輕笑せん、左れど吾人は確かに若か思ふと云ふとを斷言し、敢て狐疑せず。抑そも人をして德を修めしむるは、宋人が苗を養ふが如くなる可きにあらず。常に自己自奮して勵進せしめずんばある可らず。今の敎會は、信仰箇條を無理に信ぜしめ、信徒の衆を悉とく同一格に至らしめんと欲するによりて、件勢不得止、樣々の關涉を要するとなる、例せば、訪問の事の如き、殆んど兒戯に類す。人の德如此くにして、安んぞ進まん。

一敎會に必らず一人の牧師を置かんとするの定めは、到底出來がたきとなり、何んとなれば、日本現時未だ斯の如く多くの大先生あらざればなり。其人無くして强いて之を置かんとを要む。此に於てか、樣々の無理を生じ、無理の結果は、樣々の僞善虛禮となる。今や敎制に一大變革なかる可からず。

雜錄

活牧師ジヨン、ヱスレー

一百年紀に際するの追懷（上）　もみぢ

福音萬國に宣傳へられて、今や國として福音の聲あらざるはなし。福音の聲聞ゆる所ろに、活て働らく所ろのメソヂスト（美美）と云へる名を聞かざるはあらく、メソヂスト派の趣むく所ろは即はち開祖ジヨン、ヱスレーが熱信熱情の感化し來る所ろにぞある。威氏逝てより正に百年、今や万國に於て其紀念を催ふす。紀念の耳立たぬは人常に之を聽へばなり。われは只だ一二の逸事を追懷せんと欲す。

今の牧師は

宛から神學の講師に似たり、口に能く三位一躰の奧妙を論ずと云へど、身に一家を調ふるの初慈善を行ふと能はず、巧みに天國の幸福を寫すと云へど、目前の貧人を救ふとに熱心せず。是れ豈に宗敎の本旨ならんや。

中に就き、理論の大率ね迂にして、所見の極めて執拗きにも拘らず、能く救濟慈善の美行を實地に施すは、メソヂスト派

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

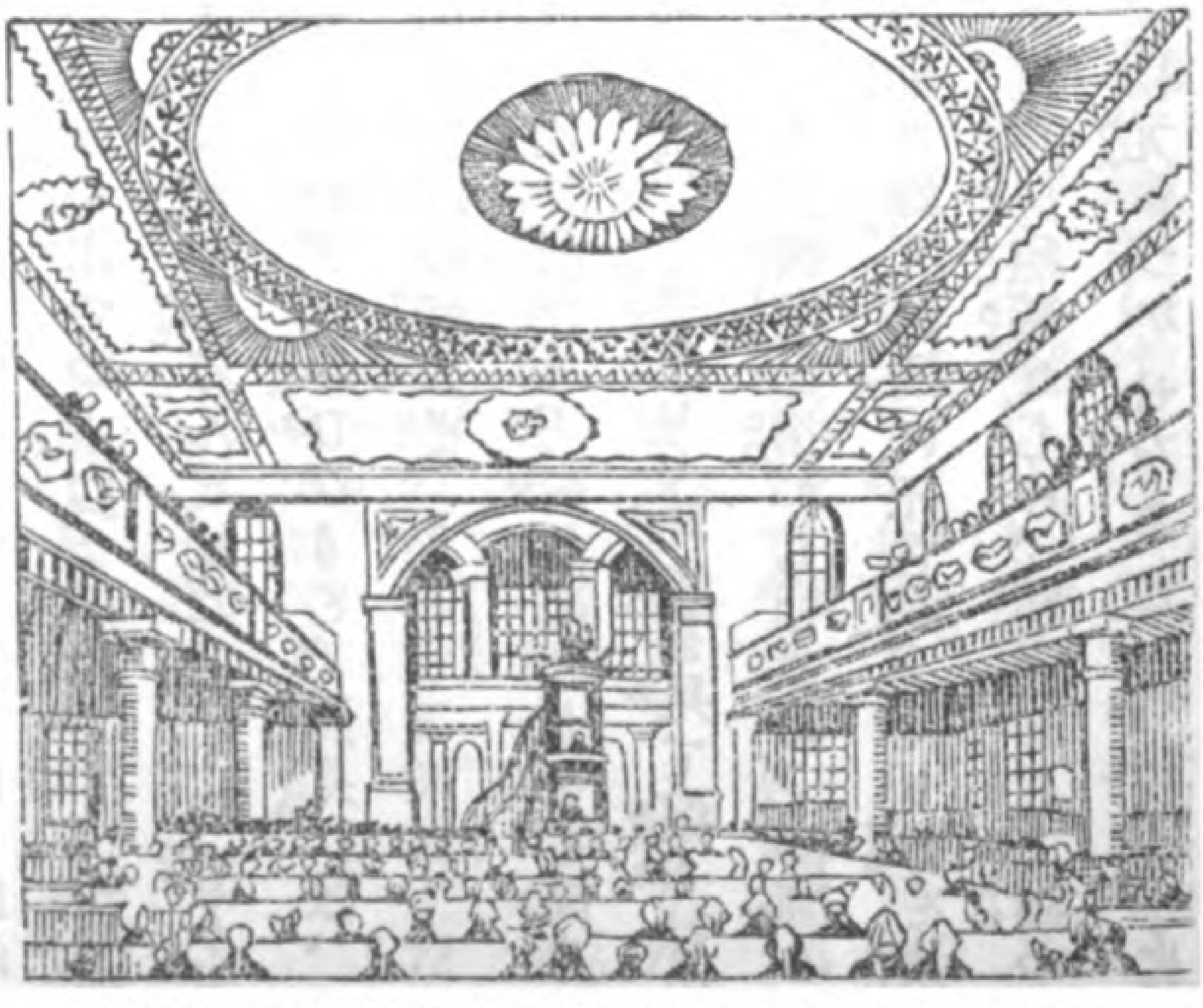
の信徒なるべし。万國にある婦人會の中ち運動の取分け活潑なるは婦人禁酒會なるべし、而して婦人禁酒會の會長ウイラードは、メソデスト派に屬し、會中の尤物亦多くは之に同じ。全世界にて、傳道方の最とも熱心なるは、當今稍や邦人が知らんとせるブース氏救世軍の右に出るはあらじ、而して、ブース氏は元とメソデスト派の人にて、現に之に屬するもの亦た此派の人を多しとす。メソデスト派は、多少粗野の躰あるとを免れず、間ま熱心を装ほふて外面炎火烈々、内即はち冷渡れるの例しあきにあらねど、斯る似而非もの丶往々にして出るは、之れが眞似んとする眞物の存ずる所以にして、メソデスト派は到底、宗教の本旨を尤とも多く實地卑近の所ろに活演するものたり。われは此故に深く此派を重んじ、延て、開祖エスレーを懷ふと尋常ならず。

ジヨン、エスレー

は朝たより夕べまで、働らきつゝけ、祈りつゝけたる人なり其性行を聞くもの誰か奮起せざらん。

彼れ、金または銀または錢を貯へ滞ることなし、何んとなれば帶ぶべき餘裕あれば悉とく之を人に施こせばなり。彼れ、

倫敦シテーロード會堂に於ける威氏説教の圖



WESLEY PREACHING IN THE CITY-ROAD CHAPEL.

威氏最后の説教の圖

WESLEY'S LAST SERMON.

行嚢を二つにせず、裏衣履杖を用意せず、到る處ろを家として四方に傳道す。彫刻家某、エスレーの名嘩びすしきにより、其像を刻みて廣く賣らんとす。就て氏に促がすと急なり。氏云く、われ自から像を刻せしむるの餘暇なし、亦餘金を有せずと。彫刻家云はく、公もし吾に雛形を執るとを容さば、其に費さす、初めの十分間に金十ギニア（五十餘圓）を呈し、其后一分間毎に一ギニアを増呈せん、公常に慈善の爲に金を費やすと多し、其金を捨て、救濟に用ひ玉はゞ亦善からずやと。エスレー、心動き、直ちに諾し、襟を整へて坐す。八分間にして雛形成る。エスレー、五十餘圓を得たり。氏は輙はち直ちに趨りて出で、

何人を救ふべきか

と見廻はしつゝ歩む。第一に目に着きたるは、痩せ果てゝ衰歩蹌踉たる一婦人、三人の餓えたる兒に寄すがられ、泣くに落す涙なく、叫ぶ聲も枯れ果てゝ當途なく歩み來るなりけり。氏之を問へば、夫は借財の爲に獄に繋がれ、子多くして仕事少なく、食はざると數日なりと云ふ。氏之に一ギニア（五圓餘）を分け與ふ、母子之が爲めに、死せざるとを得たり。

何處に最とも憫れなる人ありやと問ふに、ギルツパー、ストリートの監獄にと人の答ふ。行て牢守に聞くに、尤とも憫れなる人到る所ろにあり、目前にありと。獄に入れば、第一室に、馬鈴薯の醬皮を食ふ人あり。彼れ、半ギニア（二圓半餘）の借財にて、玆に投ぜられ、日に〳〵知らぬ人の薯の皮を賜ふによりて生き存らふと云ふ。エスレー、亦之に一ギニアを分け與ふ。彼の憫れなる人、半ギニアを以て其山の如く感じたる借財を返し、半ギニアを破れしポッケットに確と納れ、衰ろへし足を勇み躍つて牢を出でぬ。出づる時數たゝび感謝し、わが大恩人、公もし更に惠み玉はんとせば、樓上に登り玉へ、其處にある人もし未だ死せずば幸ひなりと。到見れば、

骸骨の男と藁の婦人と

殆んど死して、壁にもたれ居たり。何如にせしぞと問ふに、答ふべき辭ばも出でず、たゞ重々しく此方を見て涙ぐむのみ。エスレー、驚ろき、直ちに醫師を招かしむるに、醫師の來らざる間に、彼の藁の如き婦人は既に死しぬ。たゞ骨と皮とのみの彼男子を尤とも鄭重に療養せしめ、數週にして漸やく己が事情を物語るほどに元氣づかせたるとき、氏の手に殘れ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りし、八ギニアは正に了れり。則はち、精しく其事情を聞けば、

彼は著名の豪商人にて

平素夥たゞしき取引を爲しけるが、一朝の逆算にて營業またたく間に失敗し、非常の損失を爲しぬ。よりて總ての債主を招き、其帳簿を明らかに示し、失敗の元因を細かに説明し、暫らく返債を猶豫せんとを請へしに、大抵は承知したり。たゞ一人の代言師ありて慘酷に過し、毫も受引かず、怒つて之を法庭に訴へ、遂に入牢せしめぬ。

彼の婦人は名たゝる佳人にて

兼ての覺悟淺からず、良人入牢の后ちは、カードに繪を畫きて僅かづゝの金を得、夫に仕送り亦た家族を助けたるが、久しからずして身亦病み、遂に共に入牢するとゝなりぬ。斯て夫婦日に日に弱り行き、エスレーが來れるの日、夫人は遂に餓え死したるなり。エスレー、此等の事情を聞き、彼の多くの債主を尋ねて、此の大富權の成れの果てを語るに皆大ひに驚ろき、相應の救助を爲さんとす。去つて彼代言人に語るに、頑たる法律の結晶石は中々に承知せず、負債を悉とく辨償せずば、出牢に故障すべしと言へり。エスレー更に彼の諸債主に説き、一層之を動かしければ、債主等皆泣て、或は一百弗、或は二百弗、或は三百弗を出し恩貸せんとす。彼の牢中の人は、之が爲に代言人に對する負債を淸らかに辨じ、一身快全して牢を出で、非常に拮据して乍まちに盛かへし、翌る年同じ頃は、彼の恩人たる諸債主を招きて、借りたる金を悉とく返却し、且つ金若干を積んで、小借金の爲に苦しむもの丶救濟法に充てたり。而して此の慈善方に加擔したる第一の賛成者は、悔悟したる彼の代言人にてありける。

エスレーの一生

は大率ね此類なり、而して、エスレーをして此如き偉人物たらしめたるは、其妻スザンナ女史の感化に據る。

病中偶書

不知庵主人

微恙に罹りて既に三日。人は皆花に狂ふて隅田に上野に醉歩蹣跚恰も一年の苦腦を洗ふに却て齷齪たるが如きに余れは空しく春晝の長きを病褥の中に送る。十萬堂は曾て歌へり「花咲て死にともないか病かな」。遮莫人生は畢竟痛苦の繩索、三春麗色新たなるを見るも豈情を放樂に肆にして快然たるを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

得んや。アガシアスは曰く、

"Why fear ye Death, the parent of repose, That puts on end to penury and pain?"

余は死を恐れず死を恐れず、唯五十年の苦生涯を値ひせざるの死を恐るゝなり。

賣茶偈語は余が最愛の書なり、生平懊惱煩悶すれば必ず朗吟以て鬱悶を散ずるを常とす。賣茶は志を當世に得ずして茶に隱るゝもの蓋し凡常の風流漢にあらず、口占の一に、

初心不改幾春秋、性癖風顛竟不休、紫陌紅塵設盤礴、波險處泛虚舟、

又歳晩偶成と題して、

人間歳月轉車輪、洞裏乾坤刧外春、埋首市塵沒蹤跡、沒蹤跡處不藏身。

以て彼を想像すべし。一籃の茶具一條の痩杖春山秋水に松下竹陰に徜步して天年を終ふ。まことに此翁榮を貪らず名を賣らず八十餘年の淡生涯孤貧に安んじたれど而も其偈語皆情娟の果ならざるはなし。想ふ彼が二十二歳痾を患て窮乏困厄忽ち奮起して遊方參詢の志を立て病愈へざるに先つて腰包頂笠飄然として其郷を去りし時を。余今年二十四、賣茶が立志の年より過ぐる事二、而して碌々、交を世塵に絶つて一向專念に無上の行道に志すを得ず。偶微恙に呻吟し古人の詩に對して愧づる處多し。

古來卓犖不羈の士社會の潮流に先んじて敎を立て半世知己を得ず空しく中道に倒れ秋風落莫の中に古塚を守る者多し。寒山は弔ふて曰く、

天生百尺樹、剪作長條木、可惜棟梁材、抛之在幽谷、年多心尚勁、日久皮漸禿、識者取將來、猶堪拄馬屋。

陰深たる幽谷に一片枯槁底の朽木も歳月を經て中心猶ほ堅實ならば以て馬屋を拄ぐに堪へむ。俗骨是を識るの明なくして變物と嘲り畸人と罵り厭世者なりと退け懷疑派なりと危む。彼等不祀の鬼と爲り荊榛深き處淡烟疎雨に泣て恨氣天地に滿つ。寧ろ知らんや其氣の凝つて集るもの一大塊と爲つて長夜の眠を覺すの光明と變ぜんとは。曰釋迦、曰基督、曰孔丘、曰瑣格剌底、皆這箇一大塊。

昔し宣德の火鉢を購ふて手撫愛玩せしものあり。偶客あつて痰を灰に吐く、主人怒つて客の頭を打つて曰く汝禮を知らずと。今の道德先生が倫理を講ずるは恰も是に似たり。彼等社

會道德の頽廢に慣つて呶々口沫を飛ばして衆人を罵倒す。慷慨激昂するも可なり、切齒扼腕するも可なり。然れども我れも罪ある不完全なる人間の一なりと知らば、何ぞ先づ肉袒して其罪を謝せざるや。バットレルが何に、

"The church whose chief devotion lies
In old, perverse antipathies........"

とあり。神の爲に、神の子の爲に、マリヤの爲に、奇跡の爲に互に其同胞たるを忘れ相呑噬して齪舌を逞ふす。パウロは曰く、

爾若しユダヤ人と稱へ律法を恃み神あるを誇り其旨を知り律法に習て是非を辨へ自ら瞽者の相黒暗に居るものゝ光愚かなる者の師童蒙の傅と意ひ又律法に於て眞理と知るべき事の式を得たりとせば何故人を敎へて自己を敎へざるか云々(羅馬書)。

識得するは易し、唯感得するを以て重しと爲す。

現世の陰府、シベリアの眞狀(上)

ウイラード女史
碓氷山人譯

慘雲暗霧天地に充ち、現在からなる陰府とは露國極北の凍地シベリアにこそ、遥かに想察するだに寒慄す。嘗て多年の辛酸を經て彼地方に旅行し、其眞狀を探驗せる人あり、北米國ヲハヨの產にして名をジョーヂ、ケンナンといふ。ケンナン氏は若きより電信技士となりしが、十八歳の頃(今より二十五年前)志を立つてシベリア地方視察に向へり。二年の後歸國して「シベリアの天幕生活」と云へる書を著はしき。彼の著書一度世に行はれて、幾多義俠の米人は露帝に書翰を送りし事數百、以て仁政を行はん事を勸告したりき。

ケンナン氏を訪ふ

余(フランセス、ウイラード)は去る一月十四日を以てケンナン氏をグランド、パシフヰック旅館に訪へり。氏は中身長の人にして筋骨よく發達し、身軀端正強健なり。淸き顏に軍人らしき髯あり、目光烱々たり、鼻頭尖りて高し。「余等の室に上り來れ、我妻御身に遇はん事を望む」と、ケンナン氏の呼ぶにより、余は階上に上れり。ケンナン夫人は日光暖かなる所に肅然と坐し、針仕事を爲し居たり。此夫人と云へるはメデナの人、三年前彼女がワシントン府のソーマース女學校に學びし頃、余は面會せし事ありき。ケンナン氏に嫁してより露國に

旅行せしよし、夫人自ら余に語りぬ。其言によれば、氏の秘書官として亦道づれとして大ひに氏を助けし事明かなり。氏は余の爲に益ある可しと思ひし事を語り、余は露人救濟會の事など問ふて暫く時を移ぬ。或人露國の内情を説明するに當り、

　虚無黨と愛國者は同意義なり

と云ひしが、こは眞なるかと余は問へり。ケンナン氏答へて云へり、「否、余の見る所を以てすれば、政府に反對するものに三種の黨派あり。第一は自由黨にして腕力を用ひずして改革を爲さんと欲するものなり。第二を革命黨とす、こは全黨擧つて兵力を張り、政府に抗して内亂を起さんと欲するものなり。恐赫黨とは第三種にして、第一第二の人々が企圖する所は已に悉く試みしが、到底斯る手段によりて革命の大業を成すは覺束なしと斷念し、黨中の人分れ〱になりて機をねらひ、以て刺殺を行はんとす、「各人皆鋭き武器を用ひて功を成せ」とは黨者の云ふ所なり。以上の三黨は其勢力の强弱によりて分ちしものなり。即ち自由黨は人多くして勢力强く、恐赫黨は甚だ少數人の集合のみ、虚無黨と云ふ言語は極端なる破壞的の意義を有する故恐赫黨にすら尙不適當の文字なり。要するに三黨等しく望む所は立憲政躰を實行せんとするにあり、彼等の理想する所は米國の如くあらん事なり。余は亦、

　男子の愛國者と、女子の愛國者

との比較は如何と問へり。氏曰く、女子の愛國心は果して男子の如く高尙なるや否やは知るによしなけれど、彼等が團結する事の堅きは男子に勝ると云ふべし。シベリアに於ては通常男子より女子にして其人物の卓越する者多くあり。或人の語られし言を此に述ん、暗黑なる牢獄々裏に多年の間蟄居せし所の囚人は、將にシベリアに送られんとして獄より引出され滊車に乘に及び、突然草木人畜等を見により、男子にして直ちにヒステリア病を起し、氣絶するもの多し。然るに、女子には斯る人なきにあらねど、男子に比すれば反つて甚だ少し。或一女子の如き衆人を驚かす程の勇氣ありて只に自らが平和と安心なりしのみならず、車中の人を勵し、且慰めたり。人の母たるべき温柔の美性は斯る時に現るゝものと見ゆ。亦自らを忘れ一身を犠牲にする事に於ても女子は男子に勝ると聞けり、こは刑場に於てよく知らるゝなり云々と。余は更らに、

　女子に就きて三個の問

を發しぬ。第一愛國者（男子を云ふ）が女子に對するの感如何。第二愛國者が自ら赦免せられんと望むが如く、女子の爲めにも望むや否や。第三新露國（シベリヤ）に於て女子は男子と共に住むかと。

晩近三年間

米國婦人の大進步（其二）

倘一の記憶すべきあり、曰くエピスコパル及びメソデストの兩敎會に於て女子に執事たるを得せしむるに至りし事なり。今年の内には、プレスビテリアン敎會に於ても斯くなるべし。一度此位置に至るものは、其病氣の時及び老衰の時に於て殊に之を看護する事となす。蓋し終生人類の爲めに美事を爲し、功勞少なからぬ人々故斯く優待せらるゝも當然の事といふべし。今試に女子が組織する所の慈善事業あるものを見よ、國民全躰（米國合衆國を云ふ）の爲めとして存する會合六十に下らず、各州にある會合併せて數百、加ふに南北各地方にある小會合數万に上らん。而して以上の諸會合の力を沿ふるの會合無數なりとす。此外貧民移住事業を企て、大都會の貧民を移住せしむる事につとむるあり。婦人衞生會あり。女子職業學校あり。躰育場あり。皆是女子の事業にして、基督敎的文明の附屬物あり。即ち女子の地位をして益高からしむると共に、社會の開明を進步せしむるの事業といふ可し。

内外の女子傳道會社なるものを見よ。今より二十五年前に始めて組織せられたりしが、其事業愈擴張せられて今日は百五十万に下らざる會員とはなれり。傳道の摸樣を報告する新聞は、十二万五千を頒布すといふ。年々傳道上の會合に於て女子の出席するもの五十万にして、内には演説を爲す者あり、文章を讀あり、女子の爲す所少からず。今若四十年前の昔を顧れば、世人は女子が斯る位置に達するは月世界に至るより難しと思しならん。今日女子が傳道上に費す所の金高、二百萬弗にして、これとて彼等が猥りに用ひるに非ず、彼等は入を計りて出るを制する事小事に於て頗ぶる巧妙老練なり。又たキングス、ドーターの會員、今や二十万に充ち。基督敎獎勵會に屬するもの半ば女子なり。カドリツク敎會に有名ある一女子あり、嘗て高僧等の集會に於て演説を爲し、人を驚かしめし事ありき。今より三年前、印度のラマバイ女史此演壇に立ち、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學校建設の事を演設せしは、世人の知る所なり、女史が企圖せし所は當時何人も其成功を危みしが、今や其夢想は端なく實行せられんとす。以上陳述せしが如くんば、過去に於ては時間を殺せしにもあらず、亦徒費せしにもあらず、上帝の爲め、人類の爲めに、女子は之を活用せしなり。

教師の如き、傳道の如き、若くは慈善事業の如き、既に女子にして之に任ずるもの多き所は、後進女子が今后續ひて道を得る事易し。されば、斯る業を去つて新たなる道に入り、未だ女子の入らざる事業に先入するものは、二種の事業を一時になすものといふべし。即ち自ら事業を爲すと同時に、他の此事を爲さんとする者の爲に、道を啓けばなり。斯して今日に於ては、社會の凡ての事業中女子の入らざる所殆んどあるなし。著述家、美術家、演說家、新聞記者、彫工、商標師、農者、商人、航海者等、總ての諸業に女子既に入れり。

統計表の報ずる所によれば、獨逸に於ては獨立の生計を爲す女子五百五十万人、英國に於ては四百万人、佛國に於ては三百七十五万人、澳國に於ては佛國に同じ、米國に於ては二百七十万人餘なりといふ。

小說

マイルス、スタンヂッシユの戀

第二回　戀及友誼

室中只聽ゆるものは青年(アルデンを云ふ以下倣之)のいそぎつゝある筆の音と尉官(マイルス、スタンヂッシユを云以下倣之)がジユリアス、シーザルの驚異すべき言行錄を讀ながら時々其なやましき情を泄すところの歎聲なるのみ、暫くして尉官は手を拍て叫ひ出せり"シーザルは驚くべき人なるかな、御身は記者たり、余は戰士たり、然に彼は善く書き能く戰ひ二ら能く熟達せり"と閑雅妙麗なるジヨンアルデンは直に答て言り、"然り彼は御身の言るごとく筆に於ても兵器に於ても均く巧なり吾嘗て或書にて讀しことあり今其場所をば忘たれど彼は一時に七通の書簡を口授し同時に己が日誌を書つゝありき"と尉官は此語に心を止めず聽ぬさまして猶語を繼て云へり"實にシーザルは驚べき人あるかな彼甞て言ることあり西班牙の小村にて第一流の人物たることは寧ろ羅馬にて第二流たらんよりは善しと余は彼の此語をば善くも言けりと思ふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なり、彼は二十歳までに兩度、其後も屡婚聘せり、五百の戰を戰へり、千の都府を從へたり彼はフランダア人と戰ひしことを自ら記せり終に彼は其友雄辯家ブラタスの爲め刺されたり、扨御身も知る如く彼は或時フランダア人と戰ひしに彼の後隊は退きて先鋒も亦遁出し彼の名高き第十二「レジユン」が其劍芒を揮ふべき餘地なきまでに皆本陣に沓集せしが時に彼は一兵士の盾を取りて直ちに陣頭に身を挺し諸將の名を呼びて軍旗を進めしめ陣々をおし廣げ其兵器を自在に用ゐるこ とを得せしめぬ、斯くして彼は其日の勝利を得たりけり、是ぞ余が常に言ふ所の道に從ひしものなれ、爾若し事を善くなさんとせば自ら爲せユメ他人に委すべからずと」

室内再び寂然となりぬ、尉官は其默讀を續くるなり、只聽ゆるは青年のいそぎつある筆の音のみ彼は明日「五月花」にて便りすべき大切なる書簡を書つゝあるなり、此書簡は淸敎徒の處女なるプリスキラの名と榮とを以て滿ちプリスキラの名は句毎の首尾にあり、うたてや彼が其秘密をば托したる筆はいちわるくもプリスキラの名を呼び出して彼が密事を泄さんとするなり、終に尉官は其重たげなる表紙を以て卷を閉ぢ恰も兵士が銃をキメるときの如く不意に、高聲に青年に語りけるは、"御身若し御身の事を終へしならば、余は或る緊要事を御身に語らまく欲するなり、然れども急ぐべからず余は待つことを得るなり、余は急ぎはせざるなりと、アルデンは其書簡の端を卷ながら紙を片方に推遣り謹聽の狀を示して、直に答へて、"話し給へ何なりとも御身の話をば余は常に聽かんと待設けつゝあるなり、余は何事にてもマイルス、スタンヂッシユに關はれるとあれば聽かんとて仕度しつゝあるなりと此に於て尉官はいとこまりたる狀にて所々切々の言語にて語り出せり。人獨り居るはよろしからずとは聖書の語なり、余は擬にも之を言へり、屡々之をくりかへせり、毎日毎時余は之に就て考へ之に就て感じ之に就て語れり、何となればローズ、スタンヂッシユの失せしより余が生涯は厭ふべき味なき生涯となり果たればなり、今余が心の疾は友誼の能く癒すべき所にあらず余は屡々我心地いとさむしく覺ふるときは處女プリスキラのとをば考へ出ぬ彼女は世に獨棲してあるなり、彼女の父母兄弟は共に冬間に失せぬ、余は忍耐と勇氣と健康とを兼たる彼女が死せし人の墓死なんとする人の病床に行きつ返りつするを見き、若し天上の如く地上にも天使のあるものな

れば、余は其二個をば見たり、名をプリスキラと呼べる天使こそ今一個の天使(ローズ、スタンヂツシユを云ふ)が棄て去りし場所をば占めて余が寂寥なる生涯を支ふべきものなりけり余は久しく斯く思ひ續けしかども之を露すとをば敢てせざりき蓋は余は多くの事に於て勇悍なれども斯ることには怯懦なればなり我が爲めにプリマウスの最も愛らしき處女プリスキラ孃許行き言語の人にあらずして働作の人なる老て且無骨なる尉官が彼の手、彼の心、軍人なる彼の手彼の心を孃に献げんとすと云ふ、御身の知たる如く余は戰爭の作者にて辭令の作者にあらざれば斯く言へと云ふにはあらじ只簡單に其意味のみを語りしのみ御身は書生なれば御身の讀し書中に幾何もあるべき意中人を悦ばしむべき言語の如くに御身に最も彼處女の心を獲るに適へりと思へる典雅なる言語にも之を語り能ふべしと。」

尉官が斯く話せるとき美しき頭髮の無口なる青年、ジヨンアルデンは喫驚惑亂して言ふ所をば知らざりき、彼は何氣なき躰を以て其周章を粧んと試みぬ微笑せんと試みぬ、されど生憎に彼の心血は其腔子裏にて激駛せるを猶電光閃々たる底の室中に時針儀の震響するが如し、彼は答へりと云はんよりは寧ろドモれりと云ふべき話方にて答へて曰へり斯る使に立んには余は必ず事を敗るべし御身若し能く之を遂んと思はゞ＝余は御身の格言をくりかへすべきのみ＝爾能く之を爲さんとせば爾躬ら之を爲せユメ他人に委すべからずと而るにプリマウスの尉官は決して其目的を變へまじき丈夫らしき態度を以て嚴然として其頭を打ふりて答へり其格言は信あり、余は之を拒むものにはあらず、さりながら之を實地に應用せんには謹愼なること一丸も無益に放たざるか如くせざるべからず、さきにも言ひし如く余は辭令の作者にあらず余は城壁に面ひて陣を進め敵を靡きて征服することを得れども婦人に向ひ出陣し彼を歸服せしむるが如きは之を敢てするの勇氣なし、余は銃丸を恐れず大砲の口より發射する巨彈をも恐れず否迅雷をも恐れざれども唯婦人の口より出る小丸をば實に恐るゝなり余は之を告白す、又之を告白することを耻とはせざるあり、御身は閑雅なる書生にして說話も流暢に辭令にも巧みなれば是非余の依賴を承知せらるべしと彼は猶逡巡疑惑する樣なる其友の手を取り己が手と組合せいと親しげに押付つゝ再び言へり余は斯く輕ろく話せども余を動す感情は實に（よし余が友

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

誼の名を以て御身に求むるとをよもや否みはせざるべしと時にジョン、アルデンは答へぬ友誼の名は神聖なり、御身が其名にて、求むるに余は否むべき權利を有ざるなりと斯くして强き決意は其柔しき情に打克ちぬ、友誼は戀に打克ちぬ、ジヨン、アルデンは尉官の使命を帶びて去りぬ。

紫海の嵐

みさを

第一回

今は昔正親町天皇天正の頃なりけん、正しき御教へ我國に入り、神のまさ道ふみ守る人々多くなりにき、殊に西の方九州には貴となく賤となく、老も若きも心を合せて神の御榮えをぞほめたゝへたりける。

秋既に行き、庭の面に亂れちりし落葉、今は垣根にふき寄せられ、霜に枯れし草葉、木枯に打さはぐ、枯枝に止る鳥が音身にしみて聞へ、四境自らものすごし、此處は豐前國臼杵の市街にて町人は皆家に閉ぢ籠り、戸を鎖してぞ居たりける、ある日朝まだきまだ人も過ぎぬ街上の霜に靴跡残して行く異國人數人あり、黒羅紗の長き外套を着し、手に一卷の經書を持ち、市街の中央と思しき所にて白く塗りたる門に入る、庭上二十歩許りにして小さき會堂あり、此内に入りて直ちに跪き、何をか祈るらん、只時に上帝を呼の聲聞ゆるのみ、間もなく亦入り來る二三の人あり、こは農者にや、各竹鎗を手にし、荒き藁もてつくりし蓑をば着けたり、先きの異人は立ち上り「君等如何なれば此に來給ふぞ」と問へり、農者は答へて「さて我領主こたび宣教師のかたぐを殺害せんとするよし、そを見過すに忍びず、師等と死を共にし、道の爲めに殉するをこそ望むなれ」と云ふ内に、亦鎧冑に身をかため、長刀を佩きたる武士あまた列をなして入り來りぬ、異人はいと驚きたる躰にて「君等何故に斯く鎧ふて來るや、誰と戰はんとはするぞ」と云へば「我等は今領主が聖教を滅さんとて先づ兵を送つて師を攻めんとするを聞き、領主如何に强しとて我等の力もて防ぎ得ざる事やはある、聖教を千載に傳へん爲め今力を盡して戰はんとす、若敗れなば死を師等と共にし、道の爲めに犠牲とならば是我等の光榮のみ」とぞ答へける。

難に遇ふて義を守り、變に處して身を惜まざる勇氣こそ實に貴きものなれ、さるにても許多の信徒を殺害に遇しめんは憐

れむべきの限りなれば異人等は集り來れる人々に向ひ「君等が事あるにあたり斯く集り給ふぞ御神の喜び給ふ所あらむ、されど此處にて我等のみ殺害せらるれば事足りなん、君等は疾く逃れて生命を全ふすることそよけれ、急ぎ立去り給へかしと云へば「いなとよ我等は師等と共に死生せんと思ふなり、ゆめ／＼立去る心なし、乞ふまた去れと云ふ勿れと告げぬ決然定めたる志望は今動かす可からざるが如し。

異人等は最早や集りける人々の立去るまじきを知り「さらば武器は收めて用ひ給ふ勿れ、若領主と戰ふ事もあらば聖徒は生命を惜みて戰ひたりとや云はん、我等諸共に領主の爲すに任せなん、とは恐るゝ所にあらず」と云へば衆皆之に同意す、此時異人の一人カブラルと云へる人云ひけるは領首攻め來らば我等の身は滅び、此堂は毀たれん、堂内の聖器は今他所に送らば保存し得べし、これをも損害するは益なき事とす、さればこは君に托せん、君之を持去りて守り、後日此地に來るべき宣教師に渡し給へ」と傍らの一人に云へば「余も亦一人の信徒なり、師等と許多の信徒が道の爲めに殺害せらるゝを見て何で獨り生て止るに忍びんや、こは余の承諾ひ難き所なりされど聖器を失はんも惜しければ余は家に持歸り、余の妻に托して亦此處に來る可しとて之を櫃にして持ち去りぬ。

本國にありなばうるはしき家に住み、樂しき世をば送るべきに、幾百千里の波濤を渡り、東洋絶海の一孤島に來り、親戚にも遇はず、舊時の知友と交はるなく、何事も不自由なる内にありて只管道の爲めに盡す心の程こそ殊勝なれ、異人等が皆死を決して會堂に籠りてより四方より集り來る信徒續々絶ゆるなし、先きに一人の信徒に聖器を托して送りし後集りける人々皆諸共に跪きて祈りぬ、其語に曰く

我等今此處に死するはいと榮えとこそ思ふなれ、只是によりて御神の光榮愈よ此國に顯はれ、あまたの人々救濟に入らん事のみ祈るなり、切に願ふ神の厚恩長く此國民の上にあらん事を

と、斯くて日も暮れんとするところは會堂の外にまで多くの人々打集ひ、領主の來るを今や遲しと待居たり。

會堂を離る事半里計り、一小屋あり、内に主婦あり今卓に凭つて聖經を讀み居りしが日暮れて間もなく戸をたゝくものあり、出でゝ迎ふれば其長人なり、直ちに奧に導かんとすれば

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

良人は入足して舁き來らしめし二つの櫃を內に入れ、奧に通り、其妻に語りけるは「こたび領主信徒を殺害し、聖教を滅さんとす、我等が命を致すべきの時なり、されど女子は害を逃るゝこそよけれ、今舁せ來りしは會堂の聖器なり、こを保存して害せざる樣カブラル師の依賴により、今御身の保護に任ぜん、我は急ぎ會堂に至らんと云ひすて、立出でんとすれば妻は良人の袖に縋り、滴る淚を片袖にて拂ひ「人の妻となりける者良人の災ひに遇ふを見て生長らふに忍びんや、君今去て死途に向ふ、妾に止まれと云ふはそも何故ぞ、死を共にせよと云はるゝこそうれしけれ、などて斯はつれなかるらん君死して神の榮光を享け給はんとせば妾も亦しか望むなり」と、云ひ終つて伏沈む、良人は暫し宥めてありけるが妻は聞き入れずして「やがて後より從ふ可し、聖器は之を下婢に托せんのみ、先に出で給へ」と云ひ、急ぎ下婢を召し、會堂に行て良人と死を共にすべき旨を告げ、且つ「良人の持ち來りける二櫃を守りて保存せよ」と云へば下婢は答へける樣「妾此家に事へて此に年あり、主人の死を見て世に殘るは本意にあらず、妾も共に行かまし、必らず捨てゝな行き給ひぞ」と云ふ、此に於て二櫃は之を親戚の人に托し、一家擧つて會堂に行きぬ。

許多の信徒會堂に集つて領主の攻め來るを待つと聞き、豐後の國主(領主と同じからず)大友義鎭の二男親家、馬に騎し、多くの從者を伴ふて會堂にぞ來りける、異人等は親家の厚意を謝し、堂を去らしめんとして云はく「領主は公を憎怨すること甚だし、公の此處に居るを見れば必らず其敵對せん爲めなりとなし、よつて戰を開くと云はん、されば公が止り給ふは不可なり疾く立去り給へ」と、親家は立去るを好まざりしが理由ある言なれば之に從ふて退きぬ。

夜色既に沈々たり、寂々たる堂內只信徒が熱心に祈禱する聲のみ聞ゆ、皆上帝の前に死を決したるの意を示さゝるものなし、半夜と思しき頃一群の人門前に來りて戶を叩く音す、堂內の人々思へらく、こは領主の攻め來れるならん、皆快よく死に就くべしと云ふ、一人出でゝ戶を開けば、何ぞ圖らん、敵兵にはあらずして信徒なる女子ならんとは、人々皆打驚きぬ一人の男己が妻の其內に居るを見て「門を人に守らしめしに如何にして來りしぞ」と問へば家の裏なる壁をば打破て出來りぬ」と云ひ「女子の勇氣をさへ男子にも讓らず、幾多惰弱の男子をして奮起せしむ可し」と稱讃せぬ人ぞ無りける。

批評

(105)〇相思戀愛の現象

撫象子

宮崎湖處子著「日本情交史」、甲田良造氏著「色情哲學」の二書ありてより此方、久しく「ラブ」の事を説きたる著書出でず、文學界恰かも砂原に似たりける。無識庵主人の名を以て、多少世に知られたる、布川孫市氏は、此度び題名の書を著はし、今や其上篇を出版せり。二百六十二頁にて、定價四十錢、金港堂より發賣す。上巻總て十章に分ち、戀愛の定義、範圍、目的より、戀愛と倫理誠實との關係に至る。説く所ろ、哲學的理學的を旨とし、而して其哲學理學は、

愛情の本原は自愛心の轉じて兩性の戀愛となりし也十六頁。

戀愛の情想は即はち肉慾より進化したる者と認たむ卅四頁。

良心の裁決に從ふときは必らず正義たり善徳たり誠實たるや否やは余輩玆に明證する能はずと雖も、其命令に從ふときは多くは不可なることなしと信ずるものあり二四八頁。

など言ふに及んで、全く物質的を主とするの學派たることを示す。故に愛情の説明としては、一層味はひ薄き心地せらる。

著者初めより之を自から揣り、

身自から淡冷なるマーブル、ハートにして戀に對する感覺更に無きが故に全篇を徹して一の活氣なく恰かも規律に違ふを怖れて線と彩色とを種々に集めたる繪畫の如く抑揚高下なき音樂を奏するが如く敢て情意の現はれざる死人を彫刻せる如く又砂上に建築せる樓閣の如き觀あるは蓋し是非なきことにこそ。

と言へり。斯して、敢て戀愛を分解し、化學者の藥と、解剖家の刀とを以て、四五三々に之を精査したり。著者が眞理を研究せんとするの念篤しと云ふべし。

世の中に最とも分ちがたきものありとせば、そは戀愛なるべし、又尤とも研究しがたきものありとせば、そも蓋し戀愛なるべし。戀愛は殆んど思案の上に超過す。然るに著者冷然として之を學術的より觀察せんとす。其論の細やかにして而も未だ至らず、讀むもの丶眼を服せしめて而も心に甘從せしめざるは、蓋し之が爲め歟。左れど、前の二つの類書に比べては、引證豐富、研究緻密にして、能く彼等を凌駕するに足る。第二篇出るに及んでは、一層甘美秀麗ならんことを望む耳。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學

池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

春曙　原

、山の端は花にしらみて有明の月も消行く春の明ほの　尾崎

、、春の夜は。〇きゝすなく聲（音）にほの〳〵あけゆき（そめ）て櫻が岡に匂ふよこ雲（殘るしら）　竹内

評 横雲は曙の頃山の上にかゝるものなり岡では少し低し．

若菜　みれ子

、難波かたおぼろ夜の露に殘れる月かげに（の）ほの〳〵見ゆる（しらむ）淡し島山

若菜　みれ子

、、夕日かけ霞み渡れる（に消えて）春日野のもゆる若菜に（〇が上）春雨そふる

評 春雨は時雨とは異なり日のてりたる時はふらぬなるべし

早蕨　前島

、、きのふかも燒野の原櫻咲く木の下かけの初蕨思ひしよりもたけにけるかな

春駒　みれ子

〇ちる花の吹雪の中に立駒の影澤水のにうつりけるかな

深山落花　同

、、鳴く鳥の聲も世に似ぬ苔（奥山）の庵のくちし軒端（岩かけ路）にちる櫻かな

〇文躰

文に躰（スタイル）あるは、人に風采あるが如し。風采は心の發表する所ろにして、人によりさま〴〵なり。文の躰亦た斯の如し。佛人、アレキサンダー、ビチー、至つて文躰を重んず。嘗て辨ずらく、眞理を惡しき樣にて書き現はすは、眞理に不敬を爲すに同じ、當然眞理に屬すべき資格を損ふに均し。たゞ眞理を書現はすとて滿足するとある勿れ。眞理を書現はすには、其躰美ならずんばある可らず。蓋し、眞理を愛するものは、當に亦美を愛するものなるべし。文躰を硏究するは、人の心を硏究するに同じ、美辭學は一の心理學なるなり。此の觀を以て文學を見れば、文學は極めて嚴肅なるものなり、左れど人は只だ憙樂快睦の意ろを以て之を待す。惜しむべき哉。美術は猶ほ人の如し。美術の天職は人を誘ひて自然に到らしむるにあり。此點に於ては、基督教と其用を同じうす、と。

〇人世

ビチー亦云く、文學は人を本題とし人を主旨とす、言を換れば、人世の反響の如し、社會の實相に均し、學術を人間にし且つ人世を理想の裝ほひにして現示すと。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家　政

小事の用意

山下石翁

○儉約

太田錦城が梧窓漫筆に云く、

儉素の本は財を積んで富んとに非ず、財の費を惜むとにあらず、唯人天地の間に生れて上下の差あるも、同じく是れ同胞の人なり、然るに同胞の兄弟に衣食住に乏しくして一生困苦せる者あるに、我獨り天地に何の功德ありて美衣美食して天地を暴殄すべけんやと云ふ理を知りて、天の冥鑒を畏れて衣食居住の事を節約にすべし、是れ成德の本なり、養生の術なり、子孫長久の基なり、學道の人は、先づ是よりして眞智を開くべし。

○眞の貯蓄

武險叢話に云く、岡野左内と云ふ武士、后に岡野越后の守と云ふ、常々月に三度と定め大判小判一歩を書院一面に敷並べ、其中に枕して金銀を見るを樂しみとす、人々爪はじきしてさてもくと云はざるはなし。或時、例の如く金を見て慰さむ時、近所に喧嘩出來双方大事に及ばんとす。左内蹶起秘藏の正宗の刀を指して馳付け、一日二夜取扱ひて無事に濟まし、其間だ家に散らしたる金の事を夢にも想はず。又或時中間のもの黃金一枚を所持すると聞き、左内特の外感心し、上下ともに金子を持たずしては武邊の心得も成らず、汝ち能こそ金を持たりとて褒美に黃金十枚を遣はす。死する際み、金子三万兩を正宗の一腰に添え、主人蒲生下野の守に差出し、弟に三千兩、其外五十兩、百兩と諸傍輩へ遺念にす、又た日比貸置し借狀を納れたる箱一つを火中へ投じ、正念として死去せり。戰國に當りて、かゝる經濟の心得あり、非凡の英傑なる哉。

○黃金の用

詩人ロパルト、ボルンズ金の用を歌ひて云く、金は之を生離の下に藏めんためにあらず、又た數多の從屬に隨られん爲にあらず、一身獨立して、榮えある美事に之を用ひんが爲めに用ありと。小說家リットン亦た金の用方を敎へて曰く、人かろくしく金を取扱ふと勿れ、金は即はち人の品性也と。

○濫りに棄つ可らず

管茶山翁の隨筆に云く、魚の骨は棄つるに猶犬も食はず。長

門の人何某が家に瀧川あり、そこにてさらすに數月の后に、粉にして味噌にまじへくらふに、其味甚だ美なりと、聞識上人の語られし。余が家には瀧川なし、之を聞きて后に、一の大なる壺を地に堀り入れて、すべて捨つべき魚骨を其内に入れ、水をたゝへおき、時を以て樹木の根にうづむるに、樹木の繁茂すると常ならず。物は濫りに棄つとある可らず。

○大統領夫人の家政

米國現大統領ハリソン氏の夫人は其官宅ホワイトハウスに於て多くの改革修造を加へしといふ、殊に庖厨と洗濯所に於て大ひに改築せりと即ち先には柔かなる石を敷き並べ其上に板を以て床を作りしかば水の浸入する毎に石を濕ほし、全く乾く事なかりしを以て板は朽ち果て、不潔となれり、依て今回ハリソン夫人は床の下を固く塗り水の流れ去る樣なせり、尚夫人は廻廊をも改築せんとするよし斯くして水の流出する所を改修せば、ホワイハウスは住居するに不健康にあらずと夫人は云ひ居るよし、然し今日の所にては今の官宅を博物館となし、其兩翼の如くに家を新築し、一は之を大統領の家となし、一は大統領の役所となさんと望まるゝといふ。

隨感

婚姻箴（上）

方寸子

聊か世况に慨して先きに掲げしなれど、余れの不文なる、余れの理想に傾けるる、或は人を躓かせしやと案ずる途端、雲峯子の所説を讀み、直ちに此文を草したれど、都合ありて留め置きぬ、今亦感ずる所ありて掲出す。

天縁を受けよ　愛の使命は靈性を開發し、善徳を作さんが爲めなるにもせよ、此使命を自覺して而して後ち愛すといふものあらんや、天は吾人に愛を與へて善徳を作さしむるのみ。只夫れ愛は天よりの賦與にて此使命を有す、故にこの愛より由來する婚姻の大禮も、實は人事の大禮にあらずして天縁の大禮なりと謂ふべし。婚姻の使命茲に存するか、吾人婚姻せんと思慮するを要せず、たゞ婚姻を使命せらるべき資格を成すべき也、吾人少年の時代に人情の暖氣を知り、壯年の時代に男女の相愛を來す、皆これ天吾人に婚姻を成就せしめんとするなり。蓋し天地到る處に原因結果の理在り、人生到る處に需要供給の法存す、原因自づから結果を生じ、需要必らず供給を來す、結果を生ぜんとて原因を求むる惡しきにあらざらん、供給を來さんとて需要を力むる罪なるにあらざらん

只だ本末始終なる自然の理法に反するの故に不利なりといふのみ。吾人婚姻に思慮を費す罪なりとなさず、されど一轉して使命せらるべき資格に立つは最乘の善なりと謂ふ。吾人が婚姻に於ける思慮を放任して先づ自己の使命を獎勵する、豈に世間に所謂放任の意ならんや、若し強ひていわしめば放任せざらんが爲めに放任するのみ。ア、婚姻をして天緣たらしむべし、婚姻せんと預め思慮するは畢竟これ人力の緣たらしむるなり。覩よ如何でか圓滿なる婚姻を結ぶを得ん。

思慮の姑息　吾人善を爲すも惡を爲すも自由なり、これを以ての故に吾人は意志の自由ありと謂ふ。義人俗輩皆意志の自由を有す、されど不羈自由の意志ある者幾人か在る。「心こそ心迷はす心なれ心に心こゝろゆるすな」と古人は訓へり、吾人常に此の意志を以て覺悟とす、而して能く迷はざるを得るか、「我れ願ふ所の善は之を行はず、反つて願はざる處の惡は之を行へり、若し我れ願はざる所を行ふ時は、之を行ふ者は我にあらず、我れに在る處の罪なり」。天は使命を行はしめんが爲めに智惠を與へ、感情を與へ、而して意志の自由を與へ玉へり、吾人は此智情を與へられ、此意志の自由を與へられて、而かも使命を行はざる、これ意志の自由をして不自由たらしむるなり、そは情慾の奴隷たれば也。果して然らば吾人今意志の自由を有せど、自由の意志を有せざるなり。ア、吾人は「私心」を除き得るか、公平に思慮し得るか、若し夫れ「私心」を除きて虛心平氣に考へ得ば可なり、意志の自由能く吾人を自由の意志に步ましめば可なり、されど萬人善の爲すべく、惡の爲すべからざるを知りて、而かも之を行ふ能はざるを奈何せん。さては吾人己れの智情意を棄てゝ全能至愛の天に依賴むなり。吾人智情意の恃むべからざるを悟りて只一意天に依賴む時、吾人は初めて自由の智情意を見出す也。吾人自由の智情意を見出す時、吾人が行ふ處ろ期せずして天心に叶ふべきを知る、パウロが所謂「我れ既や生るにあらずクリスト我れにありて生ける」の妙境に達すれば也。吾人が誠實以て婚姻を攝理の媒妁に依賴する、豈に運命主義の迷信に座するならんや。苟もペルソナの天を信ずる者は、兎やかうの思慮に姑息する勿れ、天嚴として高く地肅として廣ろし、たゞ先づ攝理の使命を信ぜよ、任ぜよ。

婚姻の經路　君臣、親子、夫婦、兄弟、朋友、男女、の情

交皆其種類を異にす、されど此異種の根源を論じ來れば、惟一の情に合するを知る、たゞ惟一の情異類の關係を通して異類に現わるゝのみ。無は有を生ぜず、吾人は生來ら情の原素を稟けたり、此情五官の外物を輸入するに由て次第に生長す、情の潔きを愛と謂ひ、情の穢れたるを慾と謂ふ、潔きは「道」に由て養はれたるなり、穢れたるは「世」に由て養はれたる也。吾人「道」を離れざる以上は慾に歩む能はず、「世」に屬する以上は愛に歩む能はず、人は二人の主に事ふる能はず、吾人は到底愛と慾とを共有するを得ざる也。吾人との愛を煥養するや、君臣、夫婦、男女………の連感を離れて人間てふパアソンを愛す、即ち靈肉に抗泥せず、男女に關係せず、何を以てか其門地名譽財貨資性才學容色等の附屬を含まんや。されど斯かる圓滿なる愛は「道」を直感したる靈（靈魂にあらず靈魂の主配するてふ意）のパアソンにあらずんば到底得べきにあらず、故に圓滿なる相愛の握手は人界（俗界）に望み得ずして、靈界（信仰界）なる「道」（道は在らざる所なし）の前にせざるべからずと謂ふ也。吾人若し斯愛もて男女を愛す、如何んぞ附屬物の眩惑する處たらん、たゞに眩惑されざるのみか、初めて其眞價値を愛するを得るあり。アヽ眞正なる男女の愛は茲に生ず、これを滿足する時眞正なる婚姻は成就さるゝ也。聖經に曰く「汝等は神の宮殿なり」と、されどとは「道」を直感して道と聯れるものを指して云ふなり、吾人若し斯「道」と聯らざらんか、如何にして「神の宮殿」たるを得ん、況んや肉躰をや。吾人は肉躰を下賤なりと迷想するに非ず、惟それ道と聯りて「神の殿」たるを得ずんば、「爾曹は慾情の殿なり」と謂ふのみ、豈に肉躰、豈に情念に限らんや。苟も眞正なる婚姻を爲さんと欲せば先づ靈の人たれ、然らずんば凡ての情緒の根源なる圓滿の愛は達するとなし、この愛達し得ざるか如何にして眞正なる男女の愛を望まん、男女の愛既に望み得ざるか如何にしてか「夫婦は一躰」の圓滿を來さんや。觀よ、來りて觀よ、「夫婦は神の合せ給へる」もの也。

●これ三吉御前はマー何さ云ふことだまた梨畠へ這入てサ、つひ一時間前に打たれて叱られたシャーないかもう許せないよサー御出でまた打てこりさせるから。三吉は母の前で取つた梨を一ツ出して「おつかさん先刻六つ取て三つお打でしたから此度私は一つしか取りませんから半分打つて下さいその割合になりマスカラ

●教師「こんな眞赤な牛があるものデスカ、畫を習ても役に立ちません馬鹿らしひドコにこんな牛が居マスカ、
七歳の娘「デモ先生……その牛は日に燒た亞弗利加の牛デス。

Address made to Mr. and Mrs. H. Harris at their farewell meeting in the name of the teachers of "Meiji Jo Gakko."

The Meiji Jo Gakko firmly believing in the principles of Christianity, and considering also the peculiar character of the Japanese people, have endeavored to mould these two elements into the ideal womanly character.

Its object is wholly different from those schools, which claim to be free from religious influence, nor is it similar to mission schools in character.

From its beginning, Meiji 18, it was treated with contumely by those, who despise Christian work, and who called it a "*Yaso Gakko*" and on the other hand, those interested in Christian work, looked upon it as lending no aid in the cause of Christian education, and accordingly were indifferent to its success or failure.

So, as a neglected child, with no natural benefactors, it had no recourse but to cast itself on the mercy of heaven, and wait in faith until its true character should be revealed.

The question of its support was an exceedingly difficult one. On the one hand, it had no yearly fund, nor mission friend to apply to, when the funds ran three or four thousands yen short. Nor on the other hand, had it any support from government sources, or rich marchant friends; unaided, it struggled with the question of its own support, and who will dare to think this an easy question?

But Providence raised up friends to help in time of need First, Mrs. Wyckoff, and afterward Mr. and Mrs. Harris, with kindness that can not be fully appreciated, gave their best efforts to make the school a success.

Those, who come to us with full knowledge of Western civilization, and ripe experience in missions will be apt to think that the native methods of work are not the best, and it is natural that they should think so.

Nevertheless, these kind friends, knowing our inexperience, entered fully into our hopes, and it is well known to all, how earnestly they helped, in every way, to make our plans successful, entering into all details, and working as one with us, and for this our grateful hearts overflow thanks to them.

Nor has their work been fruitless. At one time there was a revival in the school, under the anspices of Mr. Harris, and forty of the pupils received baptism and gradually as the sown seed ripened, and bore fruit, those, who have had most strength of character and influence in the school, have entered the ranks of the believers.

From the founding of the school, in Meiji 19, until the present time, for nearly 6 years Mrs. Harris came, first from Tsukiji, and afterward from Takanawa, a distance of 7 milles or more, taking three hours in coming and going through storm and wind, to give her services as a teacher to the school. And for this, we desire to tender to her our especial thanks.

The services they two have rendered to the school during the last 7 years may be estimated in money value at about 1000 yen.

The money they have spent may be counted, but how shall we count or with what shall we weigh their sympathy and works of love? Gold and silver can not tell the price thereof.

Today the officers of the school, remembering their kindness, have desired their farewell meeting, but it seemed fitting that it should be given up to the hands of the pupils, who have profited so long by their instruction, and earnestly desire to express, in some slight degree, their appreciation of the noble efforts made on their behalf.

Therefore, we beg them to receive this meeting as imperfectly expressing the unfeigned love, and gratitude we bear them. And the officers, on their part, desire also to state that they can not express the thousandth part of their gratitude. Words are but poor symbols of their gratefulness and the pen has no power to point these emotions; they are the unfading flowers of the heart.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○内閣の變動

將に一變せんとす。或は云く、伊藤伯再たび樞機を握らんとすと。吾人は、伯が前年の卑怯薄精を記臆す。國會第一期正に滑過せるの今日、何故、山縣伯を移して、昔しの脫走者を再たび召び迎へざる可らざる乎。日本の輿論は、餘り忘れ性にはあらずや。神洲如此く人物なしと云ふ乎。

○假りに滿足す

但し吾人は何人にても宜し、實際政治が今少し改良せらるれば滿足す。到底の大治療は、轉宅もしくは修繕などにて出來べきものにあらず。

○露國皇太子

來遊あらせらるゝを歡迎す、我國長久へに貴國と修和親睦するを得ん。

○花落つ

滿目蕭殺たり、花落つる故のみにあらず、今は總じて春景色を失なへり。不景氣は經濟社會のみの事にあらず、万づの社會皆然り。維新以來、弱き日本人種暴りに狂ひ進み、貧しき囊底を拂つて、多くの物を買入れたり。今や精氣半ば失せ、万人皆な滋養療治に執念す。此を以て、世面總べて衰落、万景悉とく、活潑ならず。左れど之れ大ひに養ふの時也。

○西鄕不來

老西鄕の再たび歸らざるは言ふ迄もなし、彼が如き人物の出でざるは頗ぶる惜しむべし。

○亞片

英國人は、右の手にて支那に傳道師を派出し、左の手にて亞片を賣出せり。而して右の手と左の手と相知らざる程に隔離せんとするは、抑そも何事ぞ。義人決して之を許さず。此故に、五十年前には后のシヤフチスベリー侯先づ之を責むるの破天荒となり、其后、ジヨン、ブライト亦慨然として之に反對したるが、孤聲四方に反響して、仁者續々起り、年と共に眞愛の運動彌よ隆んとなりぬ。十七年前初めて亞片貿易禁止會（Society for the suppression of opium Trade）なるものの出で來、后ち二年チーフー條約にて、支那政府に亞片輸入を制するの權力を多くしたるが、未だ全く之を禁止すると能はず。延

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いて今年に至る。今年は其條約改正の期にして、阿片賣買を中止するに恰好の時機なり。故に、二三年來、美人の運動一層活潑にして、取分け去年來の働らきは目覺しきほどなり。英人ダイヤー氏は、印度に渡り、支那に渡り、切りに同志者を募る。支那の青年も、昔日の林則徐に倣ず、靜に事理を盡し、書を裁して英國人に送れり。各教會は祈れり。勸告書は充滿散撒せり。吾人、東端に居て同情の念淺らず、切に其成功を祈居たり。果然、四月十二日の英國々會に、ビース氏（現に鴉片貿易禁止會の會長たり）の動議出で、印度に於ける罌粟の植付け及び鴉片販賣の許可を中止せんとする案、百三十の多數にて、可決したり。大慶賀すべし。今后英國政府果して如此く實行するや、支那政府亦た其國内に於ける罌粟栽培を禁ずる乎、二つの事共は尤掛念せらる。左れど、美人の聲年々天に聞え、仁事日毎に世に行はる。謹しみて感謝すべし。

〇老獅市に出づ

ビスマーク公、ハンノーベル選擧區より撰ばれて國會に出でたり。ア、一度び合すと云へど、兎角に破綻を生じ易き日耳曼帝國は、强斷家ビスマーク公を要すると多し。

問答

可愛子

●神田錦町の望正者様に申す　仰しやる様な下宿屋はマダありません、此頃牛込の方で、ソウいふ下宿を立てゝ、有爲の青年を薫陶しようさするものがありますが、マダ出來ません、今の處では神田青年會で世話をするのより外は知りません、同じ神田でお近いですから、青年會へ御問合せなさッては如何です。

●水戸運漕會社内の某君に申す　お尋の新嶋縣の儀、植字の誤、即ち新潟縣の誤です。

通信

可愛子編

●山梨縣通信　山梨通信員報

●廢娼運動　近日山梨廢娼義會は、地方委員を會して、内部の整理を計り、各地の運動を敏快にせんさす、又甲府市内に於て、演說會を開かんさの心算なる由。

●山梨英和女學校　には今學期に於て、新入生徒八名を加へり。

●婦人會　は處々に開けり、何れも漸次よき模樣あり。

●茨城縣通信　水戸通信員報

●就學生徒男女の割合　本縣學齡兒童は男九万千三百九十一人女八万四千〇十三人あり而して就學生徒は男五万〇七百〇二人女一万六千百六十人にして即ち男は未就學者一人七分强に付就學者一人の比をなすも女は未就學者六人五分强に付就學者一人の割合に過ぎず。

●幼稚園　幼稚園は水戸市に一、土浦に一あり水戸幼稚園は幼兒五十餘名ありて三名の媬姆之を教育し居れり土浦幼稚園は盛大にして創立も亦早く目下百名の幼兒ありて三名の媬姆懇切に教育の任に當れり。

●長崎縣通信　馬場寛吉報

●娼妓の横行　對馬嚴原港頭に聳へたる、立派なる樓上には、賤娼妓の歌曲をなすを見受く、該樓上は市街を見下す場所にて、市街之が爲に喧かしきと言ふべからず、又劇場などにも折々娼妓を見受く、風俗上取締ありたきものなり。

●廣嶋縣通信　廣嶋通信員

●密賣淫　本縣は密賣淫盛にして、風俗頽廢せり、此度市街に散在するが如きことなからしめん爲め、藝妓等の居住を一區域に定め、風俗上の取締を嚴重にすることさせり。

●奇なる女學校　廣嶋市内料藝組の發意に係る私立廣嶋女學校は、愈々設立する

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

事さなれり、之れが生徒たる者は一般の藝妓にして、其目的は節義を重んじ、節操を正し猥褻の擧動を直くするに在りさ、吾人其目的を達し得べきや否やを知らず。

●岩手縣盛岡通信

佐々木吉太郎報

●岩手禁酒會第二回創立紀念會　は去る十二日午后一時より、生姜町杜陵館に開く、會するもの五拾名許。

●學術講談會　聲音速記術家源綱紀氏は、日曜毎に東奥早書學會速記術傳習部に於て、會員及び有志者の爲めに、學術講談會を開く去る十二日には、女子の教育＝女子の職業及び舊習保存家に告ぐさ題せる趣意にて演述せりさ。

◎正誤　貴社雜誌第二百五十四號通信欄内に於て學校の緒束さ題して通信せし一項は事實相違の件あり同校に於ても殊之外迷惑のよしかくては通信者も大に心外致候間同校の名譽の爲該件を取消申候此全文をかゝげ正誤相成度奉願候以上

（江州通信者）

◎又　貴社雜誌第二百六十號盛岡通信中農學士太田位さあるは太田在の誤（盛岡通信員）

女報

可愛子編

●觀櫻會　昨廿四日濱離宮に於て觀櫻會の御催しあり、天皇皇后陛下御一列にて御臨御遊ばさる。

●皇太后陛下の賜金　皇太后陛下は去る十五日、美術協會に行啓の節、金百圓同會に下賜せらる、また御餘興さして御覽に供したる紅葉舞の面々には金三十圓を賜はりぬ。

●皇太后陛下の行啓　同陛下は久々にて赤坂福吉町なる御生家九條道孝公の邸へ、近日行啓在らせらるゝ由にて、同邸にては昨今準備中なりさ。

●スウヰフト夫人の御暇乞ひ　本邦駐剳米國公使故スウヰフト氏の夫人は此度歸國するに付き、御暇乞さして、去る二十日午後二時參内、皇后陛下へ謁見仰付られたる由。

●慶喜公の令孃上京す　徳川慶喜公の令孃（十七）は、去る十五日午後三時五十分新橋着汽車にて、侍女十數名を從へ出京され、直ちに千駄ヶ谷の徳川家達公の邸へ趣かれたり。

●神戸なる伊藤伯夫人の病氣重し　之が爲めに、伯は去る十八日、京都より神戸に趣かれし由。

●東京慈惠醫院の油繪、水繪展覽會は、來る二十六、七の二日間芝の同院に於て英人ジョンパーレー氏の筆に成れる油繪及び水繪の展覽會を開き、一般衆庶に縱覽せしめ、其收入を以て同院に寄附する由。

●日本婦人禁酒會　今度便宜上よりして、東京禁酒會より分離したる、女子部會員諸氏は、去る十八日、京橋區西紺屋町二十番地銀座會に於て發會式を執行す。

●個人的廢娼同盟會　廢娼會員瀧野彌一郎外數氏發起さなり、國體の如き同盟會を設立せんさ奔走中なりさ、其目的は娼妓をして獨立の營業たるを悟らしめ樓主の苛酷的主義に反對するにありさか。

●失踪瘋癲及び棄兒迷兒さなりし婦女　警視廳にて取扱ひたる者を聞くに、去月二十三日は失踪の女三人、瘋癲入院の女一人、同三十日棄兒女一人、失踪者五人同歸復者二人、瘋癲入院一人、本月六日失踪者六人、瘋癲入院二人、死亡一人、途上病院送一人、迷兒區役所渡一人、同九日失踪者一人、復歸者二人なりさ。

●濠洲より女記者來らんさす　濠洲シドニーなる毎朝ヘラルド新聞社より、東洋事情の視察員さして、コノル、オプレー孃さいへる女性の記者、支那及び日本に來らんさす、同孃は久しくメルボルンに於て雜誌及び新聞の編輯に從事したるものなりさいへり、而して同地を出發するは多分本月中ならんさいふ。

●女子師範學校教授瓜生繁子　は東京音樂學校教授に兼任せられ、奏任官六等に叙せられ、年俸百五十圓下賜せらるゝとさなりたり。

●ミセス、ラーザ　東洋英和女學校の雖にて國人の同情を惹きたる未亡人は八月十日に鉄スペンサー女史を携へて米國を出發し、再たび渡來せらるさ云ふ。

●ミセス、ピアソン　横濱共立女學校のピアソン女史は、十年一日の如く女子教育に從事せられけるが、此度び之を思止まり、今后は全く傳道に從事せらるさ云。

●清水豐子　社員同女史は父の病氣にて頓かに西京に趣きたり。

●ハリス氏夫人　明治女學校創立以來六年を一日さ常に學生の教授に贊成助力ありける、ハリス氏夫婦は一二年休養の見込を以て米國に歸省せらる。過日同校にて送列會を開きし折、教員惣代が演説したるものゝ學師は、載せて本號の寄書欄内にあり。

●明治女學校教員　此學期より元高等女學校の教師ミス、プリンス。醫學士渡邊泰。別科醫學卒業生鈴木彬耶。高等女子師範校卒業生喜多見佐喜。駒場野山林學校出身星野愼之助の諸氏新に加はりて教員たり、其他は從來の如しさ云ふ。

●京都高等女學校　にては四月十四日、同校内に於て、卒業式を行へり、普通科（即ち本科）卒業廿人、和服裁縫科十一人、洋服裁縫科七人、都合三十八人なりさいふ。

●皇宮及離宮の拜觀　京都府立高等女學校生徒は、特許を得て去る十六日一同にて、皇宮等庭上より拜觀。

●愛知縣尋常師範學校女子部　に於ては、本年七名の卒業生を出せり。

●私立愛知縣女學校附屬幼稚園　は昨年の新設に係り、保姆二人、幼兒四十一人ありしが同校を廢止せしにより、共に廢止に屬せり、惜むべし。

●長崎縣尋常師範學校女子部　に於ては、本年九名の卒業生を出せり、同校創立以來女子卒業生を出せしは、今度が初めてなれば、多少縣民をして女子教育上の

●婦人矯風會と禁酒事業　今日午后一時より牛込神力町會堂にて安藤太郎氏演説

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

注意を惹起さしめたる由。

●優しき心ばえ　元鳥取縣知事武井氏の令孃和子(十四歳)は、因幡高等小學校の四年生なりしが、今度父の轉任にて、學校を退くに臨み、同校へ自分貯への金十圓を寄附せりといふ、實に優しき心ばえと申すべし。

●女生徒の結髮を一定す　今度和歌山縣師範學校内に新設したる、女子部生徒の結髮は、總て銀杏返しにすることに定りし由。

●西鄕夫人肴賣を叱す　故西鄕翁の夫人は、薩州西竹田村の舊宅に於て、殘年を長閑に送られ居るが、此程同家に出入する肴賣某、當時西鄕翁生存說の信否に就て、賢慮如何と申出たるに、夫人は色を變じて、斯る事の今日いかであるべき、若し斯る事を、當家に向て、再び口外なすに於ては、斷然出入を禁ずべしと嚴しく叱せられたる由。

●緒方夫門氏の母堂　は氏が不意の歸縣に付き、喜び嘸かしと思ひの外、大不快にて、弓矢の家に生れし身の、一旦戰場に馳向ひ、花々しく打死もせで、親を思ひ、妻子に牽かされ、敵に後を見せて、未練にも再び世に出しは武士の名折なりと歎きたりとか、スパルタ婦人の事、思ひ合されて勇まし。

●大石良雄の妻女石子の墓　忠臣大石良雄の妻女石子は、夫良雄割腹の後、故鄕但馬國に於て餘生を送りし由、或る物の本に見ゆるも、其墳墓の地を知るものなく、たゞ里人のみ知れるが、年久しく弔ふ人もなく、茅に埋れ居るを、同地方にて豐岡區裁判所判事濵口惟長氏の窒深く之を歎き、昨年新たに立派なる石碑を建立せしより以來、參詣の人多しと聞く。

●香港(ホンコン)に於ての改正婦女保護令　は本月六日より實施する旨、同知事の布告ありたり。

●西藏(チベツト)に於ての殺人罪　は餘り重大のとにあらず、婦人の犯罪者は茶四十函の課料を出せば濟むといふ。

●英女皇の佛國行　三月二十八日の倫敦發電は、吾人に報じて曰く、女皇はグラッスに着し、非常の歡迎を受けられたりと。

●新紐に到着せし旅人の中其携帶せしカバンの多かりしは　合衆國創設以來、佛國の女優サブラー、ベルンハードを以て第一とす、其カバンの數總て百七個ありしといふ。

●米國婦人の國粹協會　前々號の紙上に英國婦人が非雜婚會社を立てたる旨記載せしが、右は米國婦人の英國にウケよきを憤り、之を驅逐せんとの目的なるが、今度又米國に於て、之と一對なる新現象現はれたり、即ち前大統領クレヴランド氏の夫人を首將として、一隊の婦人は、近國英國風の大に米國に侵入したるを憤り、茲に一の國粹協會を組織し、以て自國の(ママ)を保ち、結婚に至りても、門閥高く金少き英人に嫁せずして、世界無類なる共和國の無位無爵の市民に嫁すべしといふを遍く國人に勸むるものなりとぞ。

●獨國婦人會の建白　獨逸の或新聞によればレニッシュ、ウエストファリアン婦人會にては今般其筋に建白して社會上の害惡即ち白奴賣買、淫賣家、私生子を有する父、和姦年齡を十八歳に繰上ぐる事、たとへ訴訟するものなきも強姦を行ひたる人等につき警官が今一層嚴しく取締りをせん事を望む旨を述べしとぞ。

●女子の新聞記者　女子新聞記者を養成せん爲め、一の學校を設けんとてニウヨークの女子中には今計畫中の者あるよし、之を聞き職工等は男子裁縫學校を建設せんと目論見中なりとぞ。

●女皇陛下と裁縫學校　英國に一の裁縫學校あり其の校長を皇女クリスチャン孃となす、過般校資募集の爲め、宴會を開きしよし、其贊成者の帳簿には始めに女皇陛下の御名ありたりといふ、宴會の席にては活人畫を見する都合にてピーア夫人之を陳列する役なりし。

●ラッセル夫婦離婚事件　伯爵ラッセル夫人は其良人に對し、離婚の訴を起せり、而して夫人の申立てし ケ條に於てはラッセル伯は離婚を承諾せざるよし、ラッセル氏夫婦は今より一年前結婚せり、其人と爲りを云へば伯はウヰンチエスター及びチックスフォルドの大學にて教育をうけし頃も校内にて評判よかりし人なり、夫人はエドワード、スカット氏の娘なり。

●非鴉片運動　「支那の友」と云へる新聞は報じて曰くマーク、スチュワート氏は今や鴉片及び害毒ある藥材を賣捌く事を英領印度、セイロン、印度植民地、香港、ボルチチ等の各地の政府をして禁制せしめんと企圖せしよし、先きにはジョセフ、ピース氏あり、下院(英國國會)に於て廢鴉片論を主張あり今亦此報に接す、吾人の賀する所なり。

●大那破烈翁の孫女　那破烈翁一世の孫女なる、マリヤンヌ、ボナパルト内親王は、コルシカのアジヤシオに於て、去月十七日薨去せし旨、同日巴里發の報に見ゆ。

●禁酒會の文學講義　露國禁酒會に於ては、職工等の暴狂醉を矯正せんとの目的を以て、文學講義會を開き、職工等に傍聽せしめ、飲酒の樂に易へんとす、此開會に際して來聽者より寄附されたる金員百ルーブルに達したりと云ふ。

●パーチルの艶聞　一時愛蘭無冠の王と呼ばれたるパーチルも、今や痴情に迷へり、オーシー夫人との艶聞は又も聞へり、嗚呼パーチル、彼は今年五十餘歳なり、而して猶斯の如し、聞く其の母は米國に流寓し、居所さへも一定せざる有樣なりと、嗚呼憐むべき母子、吾人は之が爲めに慟哭せずんばあらず。

●廣告　今后各女學校にて、規則の改正、教員の變動などあらば、一々惠報あれ。又改正規則は一部の送致を得ば大躰を誌上に掲ぐべし。

●全國各女學校卒業生　の姓名は本社にて調べ中の處ろ、畧ぼ出來上りたるを以て、近きより掲載すべし、尙未だ報告を垂れざる校舍は至急惠報あれ。

◎正誤　二百六十號の雜誌、女報欄內、憐れにして美くしき話しと題せる中、齊森縣盛岡市とあるは、岩手縣盛岡市の誤、又女學校の歸りとある女の字は衍、又杉田そめ子とあるは松田うめ子の誤。

週報

●政治地方長官追々上京す●十五日貴族院議員十一名勅撰せらる●十七日自由黨條約改正委員會を開く●活世界十一號發行停止せらる。●中正日報發行停止

●教育　十九日慶應義塾卒業式あり●二十五日大日本教育會總會

●叢報　十八日新任支那公使李經芳氏鹿鳴館に夜會を開く。

記事 論説

國文作例

第一高等中學校教授久米幹文先生序●同文學士高津鍬三郎國學專門大學卒業生和田秀松兩先生校閲●河西嘉金次長瀨市太郎兩先生編纂

第二版

正價金卅五錢 郵稅四錢

美本 全一册

本書は古文の精を拔萃して之を記事論說物語詞文序題跋贊餞牘に類別し且文法雅言俗解文詞を附して作文の資料を大成したるものなり●第一版は既に江湖の需求を得て出版より僅々十日を出ですして賣盡せり因りて今般第二版を發兌す倘續々御購讀を願ふ

發行所 本郷二丁目 畊文堂賣捌所 弓町 松村●通一大倉●石町上田屋●神田上田屋支店●飯倉櫃爪●大坂伊丹善●名古屋川瀨●同三輪●鹿兒島吉田●熊本長崎●信州西澤●上州煥乎堂●其他各府縣書林

官許第五百五十九號 米國洗染會社傳習 一名洋服及毛織物輕便洗浄水

化學作用 ドライグリーニング水

取次所御望ノ方ハ御申越次第相當御相談スベシ

東京市小石川區柳町二十四番地

伊藤組洗染所調製

津田仙氏發行

日の丸 第三卷第貳號

世の夫妻たる人々に告く●緒言、酒を飲せたる牝犬、父親の飲酒、盲啞と癲狂を產む親、自稱茅原將軍の病症と事の害、他殺狂患者の實驗、罪人の父母、遺傳の事(形躰の遺傳、疾病の遺傳、多產の遺傳長生の遺傳、心性の遺傳、癲狂の遺傳、遺傳の方法)、酒客は酒客を生む、父と母と孰れか尤も其子の遺傳に關する事多きや、賢兒を產む法なきに非ず○結論

雜錄 禁酒檄文(在米國梅馨生)烟草の由來弁有毒の話(武田信賢)迷の露 家庭叢談 英雄知英雄○訓言三則○あらまほし(賢夫人、慈善、金原明善君)、家を起したる人の話附尤もよき青年、怠惰外活潑、墓所の犬

小說 貞操美談 松の緑○藥報 大統領リンコルン氏○遺傳○親ポピユラル、サイアンス○親磨喫烟子禁酒其他數件

注意 本號「世の夫妻たる人々に告く」と題する一篇は其細目に見ゆる如く尤も精密深切に調へたるものなれば苟くも賢兒を得一家の繁榮を計らんとするものは必らず一讀せらるへきものなり

一册定價金五錢郵稅五厘十二册(即ち一ヶ年)分郵稅共五十四錢

東京麻布本村町二百十七番地 大日本丁友會

第三版

百人一首講義

鈴木弘恭述。

上製美本 五十錢 郵稅六錢
並製淡裝 三十五錢 同 四錢

陽春の讀書に宜し 歌留多遊びに宜し
遺物に宜し 詠歌に宜し

女學雜誌社

女學書類發行

女學雜誌社 編輯

家庭 廉價 子供の談

紙數八十葉　郵稅なし　定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、蘭の君。第三、糸と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とダヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も恐き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮

紙數六十七葉　郵稅なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散歩、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を過する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理

紙數百九十葉　郵稅なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷姙の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内

紙數百廿葉　郵稅なし　定價五錢

右は八木兼辰氏の講述にかゝるものなり

兒育て草

紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學

紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

松本適君譯述

●銀行事務法例　全

定價金五十錢　郵送料金四錢

右ハ有名ナル大英國スミス氏ノ原著ニ〆英國銀行並ニ其他諸銀行ノ組織、性質、事務ノ大概及ヒ其法律、慣習、實際ノ要旨ヲ說キ其間小切手ノ作用、交換ノ方法等ヲ論スル者ナリ

澁澤榮一君序　金谷昭君譯註

●應用銀行學　卷之一 卷之二 共

正價金廿錢宛　郵稅金二錢宛

本書ハ原ト米國經濟博士銀行雜誌ノ記者アルベルト、エス、ボールス氏カ專ラ實際家ノ幇助ヲ借リテ編述シタル者ニシテ譯者亦之ニ本邦ノ銀行ニ關スル要件ヲ挿入シタルカ故ニ銀行及ヒ商業社會ニ洪益アルハ勿論諸學校特ニ經濟商業ヲ專修スル學校ノ教科書ト爲スニ最モ適當ナルモノナリ

田口卯吉君序　片山平三郎君譯

●賓氏經濟夜話　全

正價金二十錢　郵送料金四錢

右ハ英國有名ノ經濟學者フォーセット氏ノ夫人ガ童蒙婦女ニ解シ易キ樣繪畵ヲ入レテ朝比奈巡島記ノ如キ面白キ島物語ヲ以テ自由貿易主義ナル經濟ノ大意ヲ說キタル書ナリ

發兌　東京市京橋區彌左衞門町七番地　經濟雜誌社

師範科生新募集

部長　吉田仲子

私立　明治女學校

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三